

名前

◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

手作りイカダで川下り



手作りのイカダに乗り、元気に声をかけ合いながら川を下る富士小の子どもたち—佐賀市の嘉瀬川

嘉瀬川 富士小児童が挑戦

佐賀市 富士小の4年生8人が14日、手作りのイカダで嘉瀬川の川下りに挑戦した。先生や保護者の応援を受けながら、「いちにー」と声をかけ合ってハッスル。必死にパドルをこぎ、500メートルのコースを50分かけてゴールした。

イカダは4人乗りで幅1メートル、長さ2メートル。竹を固定した骨組みがベースで、木の板とゴム製の浮輪をひもで結び付けている。ライフジャケットを着た子どもたちは、アニメのキャラクターなどを描いたパドルを手に、4人ずつ2台のイカダで出発。逆風でなかなか進まず、懸命にゴールを目指した。

井上忠日人君(10)は「思ったより手が疲れたけど、楽しかった」と満足げに語った。手作りイカダの川下りは、環境学習も兼ねて担任の吉田誠也教諭(38)が考案。保護者は「自然に触れるいい機会になった」と話していた。



(佐賀新聞 平成二十三年七月十五日付 十五面)

二 あなたがこの記事を読んで思ったことや考えたことを四十字以上、六十字以内で書きましょう。

一次のアからオの内容について、記事の中から書きぬきましょう。

ア いっ

イ どこで

ウ だれが

エ 何をした

オ 体験をした小学生が語った言葉

Blank box for writing the answer to question O.

記事の中の、習っていない漢字はひらがなで書いてもらいよ。



Large grid for writing the answer to question II.

60 40
字 字

◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

歌集「ひまわり」できたよ

秋の情景いきいき112首

本庄小6年生



(佐賀新聞 平成二十三年十月十四日付 十七面)

制作した短歌をまとめた歌集「ひまわり」を手にする6年生と、指導した丹野真智俊さん(後列右)＝佐賀市の本庄小

佐賀市 佐賀市の本庄小(古賀正道校長)で、地元の自治会長らに講師に招いた短歌の授業があり、6年生の短歌をまとめた歌集「ひまわり」が完成した。それぞれ子どもらしい感性と素直な表現で、「秋」の情景を生きて切り取っている。

自治会長らが講師

短歌の授業は、市の地域コミュニティ活性化モデル事業の一環で、本庄まちづくり協議会の地域教育実践部が企画。本庄自治会長の丹野真智俊さん(3)らが講師を務めた。授業では正岡子規や若山牧水、石川啄木の短歌を味わい、作品に込められた思いを学習。「彼岸花」「秋祭り」「芒原」を題詠に「五七七七七」と指で字数を数えながら短歌に挑戦した。「キレイだな花火のように咲く花だ 秋の小道に咲く彼岸花(川浪総明君)」「秋祭りみこしをかつぐ五秒前 はちまき締めて気合を入れる(内山日菜子さん)」。歌集には6年生全員の112首が収められた。丹野さんは「躍動感にあふれる作品ばかり。命や社会事象に目を向けるきっかけになれば」と話す。完成した歌集は6年生全員に贈られたほか、地元公民館などにも寄贈された。

右の新聞記事の①から④の部分には、それぞれどのような特ちょうがあるでしょう。次の【新聞記事の特ちょう】の、アからエまでのの中から、合うものを選んで、() に記号で書きましよう。

① 見出し ()

② リード文 ()

③ 本文 ()

④ 写真とその説明 ()

【新聞記事の特ちょう】

ア 記事の題名に当たる。記事の中心を短い言葉で表して、ひと目で分かるよう大きく書かれている。

イ 出来事のくわしい内容が書いてある。

ウ 内容をより分かりやすく、くわしく伝えるために、のせられる。

エ 記事の内容を短くまとめて書いてある。



◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

歌集「ひまわり」できたよ

本庄小6年生

秋の情景いきいき112首



佐賀市 佐賀市の本庄小（古賀正道校長）で、地元の自治会長らを講師に招いた短歌の授業があり、6年生の短歌をまとめた歌集「ひまわり」が完成した。それぞれ子どもらしい感性と素直な表現で、「秋」の情景を生き生きと切り取っている。

創作した短歌をまとめた歌集「ひまわり」を手にする6年生と、指導した丹野眞智俊さん（後列右）＝佐賀市の本庄小

自治会長らが講師 コミュニティ活性化事業

短歌の授業は、市の地域コミュニティ活性化モデル事業の一環で、本庄まちづくり協議会の地域教育実践部が企画。本庄自治会長の丹野眞智俊さん（73）らが講師を務めた。

授業では正岡子規や若山牧水、石川啄木の短歌を味わい、作品に込められた思いを学習。「彼岸花」「秋祭り」「芒原」を題詠に、「五七五七七」と指で字数を数えながら短歌に挑戦した。

「キレイだな花火のように咲く花だ 秋の小道に咲く彼岸花（川浪 綾明君）」「秋祭りみこしをかつぐ五秒前 はちまき締めて気合を入れる（内山 日菜子さん）。歌集には6年生全員の112首が収められた。丹野さんは「躍動感にあふれる作品ばかり。命や社会事象に目を向けるきっかけになれば」と話す。完成した歌集は6年生全員に贈られたほか、地元公民館などにも寄贈された。



記事の中の短歌を参考にしてみましょう。

二 上の題詠の中から一つを選んで、あなたも短歌をつくってみましょう。（五七五七七の字数で）

一 この記事の、短歌の授業の題詠（短歌をつくるときのテーマ）は何でしたか？「芒原」以外のあと二つを書きましよう。

読む

資料を活用した文章を読もう

①-1

名前

◆ 次の文章と資料を読んで、あとの問いに答えましょう。

一 現在、世界でどれくらいの自動車走っているか知っていますか。その数は、十億台以上と言われています。自動車は、わたしたちの生活を支えるために欠かせないものの一つになっています。

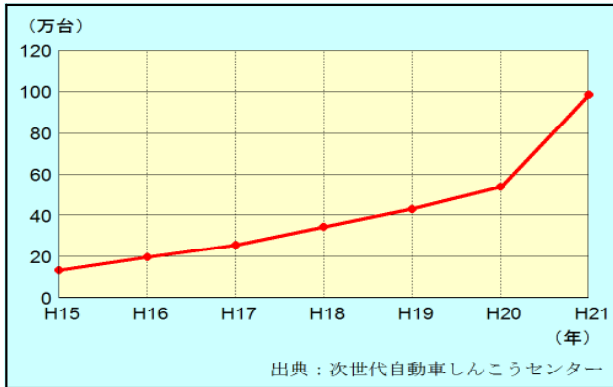
二 自動車は、百五十年ほど前に開発されてから現在にいたるまでに、めまぐるしいスピードで進化を続けてきました。現在、写真のようなハイブリッドカーという新しい自動車が開発され、注目を集めています。街の中でもよく目にするようになったハイブリッドカーとは、いったいどのような自動車なのでしょうか。

三 図①は、「ハイブリッドカーの仕組み」を表したものです。ハイブリッドカーは、ガソリンなどの燃料で動かすエンジンと電力で動かすモーターを同時に別々に使って走行する自動車です。電気を発電するための発電機や、電池のような役目をするバッテリーなどが組み込まれています。この仕組みにより、これまでの自動車よりも少ない燃料で走ることができます。さらに、燃料をあまり使わないので、二酸化炭素などの空気をよごす気体を出す量が少なくなります。このことから、ハイブリッドカーは、環境にやさしい自動車だと言えます。

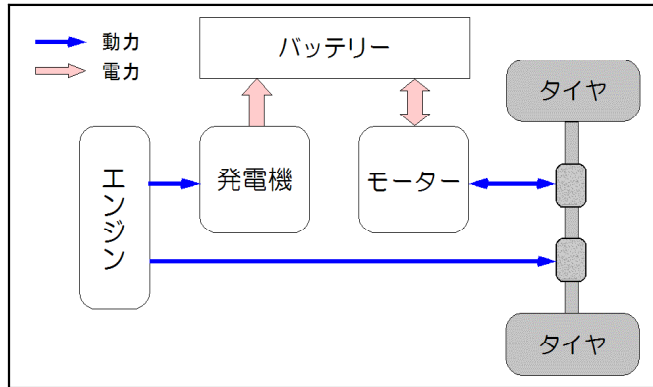
四 現在、ハイブリッドカーは急速に増えています。図②は「ハイブリッドカーの保有台数（日本）」を表したグラフです。平成十六年に二十万台ほどだったハイブリッドカーが、平成二十一年には百万台近くになっていきます。五年間で約五倍も増えていることが分かります。

五 しかし、ハイブリッドカーにはいくつかの問題点があります。一つ目は、これまでの自動車に比べて価格が高くなるということです。モーターなど、電力で動かすための部品を取り付けるわけですから、その部品代がかかります。技術開発や改良のためのお金も必要ですので、どうしても価格が高くなってしまうのです。二つ目は、走行音が静かすぎて歩行者が気付かにくいということです。モーターだけで動いている時には、これまでの自動車のようなエンジン音が出ません。歩行者にとっては、後ろから自動車音が近付いていることに気付かないことがあるので、とても危険です。

六 環境問題への関心が高まっている今、ハイブリッドカーは、ますます増えていくことが予想されます。だからこそ、ハイブリッドカーの問題点を解決するために、さらなる改良が求められています。自動車は、わたしたちの生活を支えながら、これからも進化を続けていくのです。



図② ハイブリッドカーの保有台数(日本)

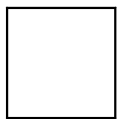


図① ハイブリッドカーの仕組み



写真 ハイブリッドカー

一 図①を説明しているのは、から段落の中のどの段落ですか。の中に段落の番号を書きましょう。



段落

二 段落は、を示しながら説明している段落です。その説明の仕方で、あてはまらないものをアからエまでの中から一つ選んで、記号に○を付けましょう。

ア 図①と図②を比べて分かったことを説明している

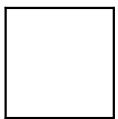
イ 具体的に数字を示しながら説明している

ウ 何を表すグラフなのかを説明している

エ 図②から読み取れることを説明している



三 この文章には、ハイブリッドカーの問題点がいくつ挙げられていますか。にあてはまる数を書きましょう。



つ

四 筆者は、なぜ図①や図②を示しながら説明しているのでしょうか。あてはまるものをアからウまでの中から一つ選んで、記号に○を付けましょう。

ア 読み手をたいくつにさせないようにするため

イ 文章構成を分かりやすくするため

ウ 自分の考えに説得力をもたせるため

活用

新聞記事に見出しをつける

①

名前

◆ あなたの学級では、新聞記事を使って、思ったことや考えたことを交流する活動を行っています。次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

肩や腕でひと休み



人を怖がることなく肩に止まるカラス—武雄市橋町の橋ライスセンター

新聞で学ぼう



武雄市

麦刈りのピークを迎える中、

午後1時ごろ、同センターの女性職員が敷地内でうすぐ

武雄市 橋町の橋ライスセンターに1日、人なつっこいカラスが迷い込んだ。農産物を荒らす「天敵」だが、目が不自由と見られ、腕や肩にピタリ。農家は「間近で見ると意外にかわいい」と頬を緩めている。

武雄市 橋ライスセンター

や肩に乗せると時折目を閉じて静かに休んでいる。農家にとってカラス被害は深刻で、橋町でも数日前に稲の苗床が荒らされたばかり。同センター利用組合の角行男組合長(71)は「いつも悪さばかりするにつくき敵だが、こうして来られると…」と苦笑い。

日本野鳥の会眞支部の馬場清さん(68)は「ひなの時から飼いだらしたものでなければ、あまり例のないこと。助けてもらったことに感謝しているのかもしれない」と話す。(村上大祐)

(佐賀新聞 平成 23 年 6 月 3 日付 13 面)

一 この新聞記事には、「見出し」の部分がありません。どんな見出しをつけるか、記事の本文を読んだり写真を参考にしたりして、新聞記事の中の [] に、内容に合う見出しを十五文字以内で書きましょう。

二 この記事の「意外な点」や「おもしろさ」はどんなところかを考えて、それを伝え合います。あなたなら、どんなことを伝えますか。文末は、「〜こと。」で終わるようにして一文で書きましょう。

1) 2)

活用

新聞記事に見出しをつける ②

名前

◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。



親子エコ料理教室 野菜すりおろし工夫



熱が通りやすいようにカレー用のニンジンをすりおろす児童—佐賀市兵庫町のほへみ館



佐賀市

エコにこだわった親子料理教室が23日、佐賀市のほへみ館で開かれた。市内から親子11組30人が参加し、節約カレールなど4品を完成させた。カレー作りでは、最低でも数十分かかる煮込み時間を6分に短縮。ふだん角切りに

するジャガイモやニンジンなどすべての野菜をすりおろし、熱を通してやすくしたほか、ひき肉はあらかじめゆでてから鍋に加えた。レシピを考案した真環境サポーターの山崎佐智子さんは「油を減らした調理法なので、カロリーも『エコ』になります」。母親と参加した神野小4年の古賀天愛さん(9)は「具材を細かくするだけで節約になるのは不思議だし、すごい」と感想を語った。

佐賀市は2012年度までに燃えるごみを08年度比で10%減量することを目標に設定。その一環として、食べ物や資源の大切さを見直し、省エネを实践する場としてエコ料理教室を毎年開いている。

(佐賀新聞 平成 23 年 8 月 24 日付 9 面)

一 この新聞記事には、
けるとよいでしょうか。記事の本文を読んだり、写真を参考にしたりして、内容に合う見出しを
十五字以内で書きましょう。

Grid for writing the title.

二 あなたの学級では、この記事を使って、思ったことや考えたことを交流する活動を行うことになりました。あなたなら、この記事を使って、「食べ物や資源の大切さ」についてどのようなことを伝えますか。文末は、「〜こと。」で終わるようにして一文で書きましょう。

Grid for writing the answer.

〜こと。